

専門を超えて共に歩んだ心の友へ

高實 康稔

園田先生、今学期をもってご退職とお聞きし、万感胸に迫るものがあります。私は5年前に退職しましたが、この5年間も含めて先生とともに歩んだ40年近い道のりが彷彿としてまいります。親友という言葉では足りません。心の友と呼ばせてください。

若かりし教養部時代にも本当にいろいろなことがありましたね。大学紛争後に特に激しくなった教養教育軽視の制度改変に抗して、まさに荒波にもまれる船中で一喜一憂するかのように激論と試行錯誤が続きました。先生から九州大学への異動のお話があったのはそのような動揺の渦中でのことであつたと思います。忘れよとて忘れられないのは、私が「お断りしてほしい」と強く引き留めたことです。先生は悩まれました。結局、長崎大学教養部への愛着を優先された先生の態度に感激しつつも、母校からの誘いに待ったをかけた自責の念にも駆られました。

外国語教員の同僚としてお互いにより相談相手でございましたが、思えば学外の社会活動でも私は常に先生と共に歩ませていただいたといっても過言ではありません。長崎在日朝鮮人の人権を守る会に入会したのも同時でしたし、岡まさはる記念長崎平和資料館の設立にも力を合わせて努めました。先生の人権意識と歴史観にどれほど支えられたか知れません。岡正治牧師がご健在であつたころのこと、共に資料館理事として維持運営のさまざまな困難に立ち向かってきたことなど思い出は尽きません。とりわけ良心的兵役忌避のドイツ青年を資料館で受け入れるに当たって、先生がドイツ政府と交わして下さった合意契約は記憶に新しい貴重な思い出です。初代から4人目の現在に至るまで、ドイツの若者たちが資料館の活動に積極的に貢献してきたのも先生の日常的なご尽力のお陰です。

環境科学部創立前後の波乱に富んだ日々も忘れえませんが、私が退職時に残したゼミ生を先生のゼミに受け入れて卒論指導をして下さったことはどれほど感謝しても足りません。先生の友情の印として、また文化環境への愛着の印として生涯忘れません。教養部の解体改組の過程で、新学部における文化環境講座の意義と重要性を強調された先生の環境学に対する思想の実践であつたとしても、大きな負担であつたに違いないからです。新学部に参加するか、他学部に移るかを親しい面々で真剣に語り合ったこともあらためて鮮明に蘇ります。

退職はもとより引退ではありません。健康に留意されて、今後益々ご研究とご活動に邁進されますように祈ってやみません。そして、良心的兵役忌避の青年たちとの再会のために、資料館の仲間たちをドイツへ引率して下さる日も近いことを念願してやみません。